

第37号

通信

たま

TAMA



上高地/焼岳

日本山岳会スケッチクラブ 宇田俊二

自然に親しみ、山を讃え、登山を培い、人を育む

支部設立10周年記念事業の準備進む 記念式典・祝賀会は1/18に武蔵境で開催決定

東京多摩支部設立10周年に向けて、さまざまの記念事業が、委員会・幹事会の決定を経て具体的な形を現してきた。記念式典は、毎年実施している「新春の集い」の時期の1月18日にJR 武蔵境駅前のスイングホールで、式典、祝賀会、講演会と合わせて行うことが正式に決まった。記念山行として、国内では4月に御岳山長尾平へ、10～11月に雲取山への1泊懇親山行が山行委員会の協力で大筋確定している。5周年記念事業で実際に踏査して報告書を作った「多摩百山」を利用した記念山行については、現在プロジェクトチームで検討中である。この8月3日には、インド・ヒマラヤのザンスカール未踏峰を20年7月18日～8月10日に実施する予定の海外登山計画の詳細と、ネパール・ヒマラヤ、エベレスト街道トレッキング(今年または来年の11月)およびモンゴル・テレルジ・フラワーハイク(来年6月)の企画の合同説明会が、多摩支部会員が参加して、京王線聖蹟桜ヶ丘駅前関戸会館で行われた。その他に支部会員の寄稿による会員のプロフィールと山への思いの原稿を集めた「たま岳人記」と10年間の活動記録などを集めた記念誌の発行に向けて作業が進んでいる。

安全対策委、4～6月に37件の計画受理

支部安全対策委は19年4～6月に合計37件の登山計画を受け取り、計画・行動等が妥当かどうか検討した。計画はいずれも適切と判断、その旨を遅延なく伝えた。内訳は、山行委・自然保護委などの支部山行18件、沢登り同好会などの同好会4件、個人山行は27件だった。

山岳会新会長に古野淳 エベレスト北東陵を初登攀

日本山岳会の26代会長に古野淳(ふるの きよし)元副会長が就任した。6月22日に開催された通常総会のあとの理事会で選任された。1961年福岡県生まれ。日本大学山岳部。86年ネパール・ヒマルチュリ(7,893m)南陵初登攀、95年にはエベレスト北東陵より世界初完登に成功、朝日スポーツ賞を受賞。マッキンリー、アコンカグア、その他ネパール・ヒマラヤ、北米など多数登攀。山岳地や辺境地で衛星端末を利用したモバイル通信を得意とする。株式会社ウェットレック代表取締役。

8.11 「山の日」 推進運動を続けよう

「山の日」は、日本山岳会など山岳団体が提唱して実現。2016年から国民の祝日となった。日本国土の70%が山という。山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する日だ。「山の日」を定着させていきたい。推進運動を息長く続けていこう。

令和元年度支部総会

登山計画の提出が定着 リーダー育成教室を開講

東京多摩支部の令和元年度通常総会が5月12日、立川女性総合センターで開催され、2018年度の事業報告・決算案、2019年度の事業計画・予算案などを原案通り承認した。役員人事では、土井充幹事及び会計が退任し、岡田陽子が新しく幹事に選任された。会計は植草由利幹事が新任。総会には、委任状をふくめ168人(出席56, 委任状112)が出席。議決権を持つ正会員256人(4月30日現在)の65.6%にあたる。

武藤幹事長の司会で議事進む

総会は、武藤幹事長の司会で進められ、規定により支部長が議長を務めた。事業報告・事業計画については、山本憲一事務局長、収支決算は・予算案は土井財務委員長が説明した。小口治、小清水敏昌両監事は、決算報告等議案を是とする監査報告があったが、業務の監査の一環として、幹事会での議論が少ないし、幹事会の議事録にどのような議論があったのかをもっと入れるようにという指摘を幹事会に対してしたことを明らかにした。

事業報告は、18年度に登山計画書の提出が義務化されたが、今年2月末現在の提出状況は、支部山行52件、同好会山行10件、個人山行105件、計167件にとどまっていると指摘。特に事業報告は、多摩支部の将来を担う中堅会員の育成と登山教室および山行委員会のリーダー育成を目的に期間2年、受講生15名で、中級登山教室を開講したと強調している。受講生は、全員がいずれかの委員会に所属することを義務付け、未所属の受講生には安全対策委員会に所属させ、全員に安全登山講習会への出席も義務付けた。登山教室では、山行リーダーのもと班リーダー、サブリーダーとして積極的にリーダー経験を積むように取り組んでいるとしている。

東京多摩支部の現況は、19年3月末現在で、319名(正会員257, 準会員61, 支部友1)で前年比13名増(入会36名, 退会23名)。退会者は全員正会員。山本事務局長は、この傾向が今後も続くと思われる、と述べた。

19年度の事業計画では、登山教室の第8期、初心者向け登山講座が40名の応募を得て始まるとうえで、これまで登山教室115名の修了生のうち、79名が入会しているが、4期生以降の入会者のほとんどが準会員で、48名に上っている。来年2月に3年の準会員期間を過ぎ、正会員へ移行するか退会するかを決める準会員数は28名(うち3名はその後正会員へ移行)であると指摘、多摩支部としては、本部で設置する「準会員制度検証プロジェクト」で、準会員制の廃止を求めることを表明している、と述べている。

事業計画は、多摩支部の当面の課題として①幹事・委員長のなり手不足②集会委員会解散後の総務委員

会の業務拡大による支部全体の業務バランスの崩れ③新入会員はクラブライフ全般を楽しむことより、山行を楽しむ傾向にあり、定例・平日山行への参加などは多いが、懇親会などへの参加率が低いことを指摘している。野口支部長も、特に「幹事・委員長のなり手不足」の問題を指摘し、今年度はその対策の検討を始めると述べた。

新幹事プロフィール

岡田陽子(会員番号13463)

2001年、日本山岳会に入会。東京多摩支部では、創立から14年まで集会委員長を務めた。自然保護委員会に所属。山岳会本部の総務委員。高校時代、登山/スキー部、大学で体育会山岳部、証券会社勤務時代は同業団体山岳部に所属し登山を続ける。ご主人の赴任に伴い、18年間海外生活。高尾の森づくりの会や白神山地ブナ林再生事業に参加し11年から同期の三ツ峠山荘主人、中村光吉氏のアツモリソウ保護活動に協力。世界各地の山にも多数登り、国内では17年に日本三百名山を完登した。

日本山岳会通常総会

300万円超の黒字化めざす 多摩支部の永田、近藤理事再任

日本山岳会の通常総会は6月22日、千代田区六番町の主婦会館プラザエフで開かれた。2018年度事業・決算報告、19・20度役員選任について審議しいずれも原案通り承認された。

役員選任では、小林政志会長(多摩支部会員)らが退任、その後任に古野淳会員(元副会長)が26代会長に選任された(1面記事参照)。新任は、古野会長のほかに、坂井広志(評議員、元常務理事)と山本宗彦(元理事、が副会長に、萩原浩司(評議員、元理事)が常務理事に、神尾重則、清水義浩、飯田邦幸、柏澄子が新しく理事に選任された。黒川恵(評議員、元副会長)は、新任として監事に就任した。

野澤誠司(副会長)、永田弘太郎と古川研吾が常務理事、安井康夫、清登祿郎、近藤雅幸、波多野あをい、が理事に、石川一樹は監事として再任された。退任したのは、小林会長のほかに、副会長の重廣恒夫と中山茂樹、常務理事の神長幹雄と谷内剛、理事の斎藤繁、星征雅と、および、監事の平井拓雄の8人。

30年度事業報告のなかで、小林会長は、「2000年度を会員数のピークとして、10年以上にわたって、毎年100名程度減少していたが、近年は微減となっている(正会員と準会員を合わせた会員数)。19年3月現在会員数は4,770名となった。年間では150名の新入会員と準会員100名の入会があった」と述べている。

また新年度の収支予算書は、会費収入の減少によって経常的な赤字となり、赤字解消のためにさまざまな施策をじっこうしてきたが、17年度にはこれらの施策の効果が結実し、わずかながら黒字を実現した、と指摘し、現在の予想では、

18年度も黒字が継続するものと想定している述べたうえで、「19年度予算は会員数増加及び寄付金募集を基本とする収益改善策を柱とし... 各種活動に対する適切な費用削減の知恵を織り込んで継続的な収支の改善に努めていくことにより3,177,000 円の黒字化を実現する」としている。

質疑応答の中では、多くの会員から、個人情報問題から作らなくなった会員名簿を再び作ってほしいという意見が出された。「東北大地震の時には、会員名簿を使って、支援ができた。」「会員相互の交流には、名簿があれば、地域、ご近所で、より活発な交流ができる。」「個人情報の問題はあっても、会員名簿に自分の名前があることを誇りに思うから、名簿は必要だ。」「2008 年版を使っているが、退会者が多いので、情報が古く不便だから、更新したものを出してほしい」など続々と意見、要望が出されたが、小林会長は、「ご意見としてうけたまわる」という答えに終始し、会員から不満の声が上がっていた。(石塚嘉一)

警察庁調べ

18年の山岳遭難、過去最多更新 遭難2,661件、遭難者3,129人

警察庁の調べによると、2018年に全国で起きた山岳遭難事故は2,661件、遭難者は3,129人で、17年を抜いて

過去最多となった。死者・行方不明者は342人と、12人減ったが依然高止まり。

過去10年間の発生状況を見ると、増減を繰り返しているが、13年以降の発生件数は2,000件以上で推移しており、09年と比較すると、発生件数は985件(58.8%)増、遭難者1,044人(50.1%)増、死者・行方不明者25人(7.9%)増となっている。

遭難事故の原因は、「道迷い」37.9%と「滑落・転倒・転落」35.1%(滑落17.4%、転倒15.0%)が多い。スキー客を中心にした訪日外国人の遭難も急増傾向にある。外国人の遭難者は169人で14年(32人)の5.3倍となった。このうち111人は、訪日外国人客で、「バックカントリー」目的の登山中の遭難(61人)が多かった。

東京は147件で全国3位に戻る

東京は、遭難事故147件、遭難者数185人と、前年度より大幅に増え、順位も1つ上がって、長野県297件、北海道201件に次いで3位に戻った。青梅警察署では、奥多摩における山岳事故の特徴として、登山に必要な体力、持久力の不足により、下山時に石につまずくなど、転落する事故、急変する山の天気など自然の脅威に関する知識不足による事故、道に迷いビバークする際のサバイバル技術不足による事故、リーダー任せの「他人依存型登山」による事故などがあると、警告している。

会報刷新に 力の結集を！

支部長 野口いづみ

東京多摩支部では今まで広報委員会が会報を作成してきました。しかし、高橋重之委員が体調の理由から広報委員を辞任されることになりました。また石塚嘉一委員長が、家庭と仕事の事情により、広報委員長を辞任される希望を提出されました。私たち幹事会は石塚委員長に翻意をお願いしましたが、難しいと考えられ、辞任を承認することを余儀なくされるに至りました。

その結果、實際上、今後、広報委員会が会報を作成することは困難であり、会報の作成については新しい体制での取り組みが必要と判断されました。

今後の方針として、新たに会報作成委員会(仮題)を立ち上げ、当面は野口が委員長を担当することにしました。同時に早急に委員を募集する必要があります。会員

の皆様には委員として参加していただき、力を結集して会報の作成に当たって頂きたいと思います。自薦、他薦ともに歓迎ですので、ご協力を頂けそうな方は是非、野口宛にご連絡ください(izumi_noguchi@yahoo.co.jp)。

新しい会報については、皆様の意見を広く取り入れたいと思いますが、内容的には従来の会報から大きな変更はしない予定です。ただし、作成などの経費を削減したいと思います。そのために支部報PDFファイルをEメールで配布を希望される方にはEメールで配布したいと思います。ご希望については改めてICT委員会から案内しますので、ご希望をお伝えください。Eメールでの配布希望者が多ければ、紙による会報の作成費用、郵送費が削減されます。印刷はWebによって印刷会社に依頼し、総カラーを予定しています。予算的に可能でしたら、配送も業者に依頼することを考えています。このことはマンパワーの削減にもつながるでしょう。皆さまのご協力、ご理解が戴けましたら幸いです。

いわばゼロからのスタートで、欠巻が生じる可能性もあります。会員の皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

新しい会報に期待して

任期途中の辞任で、広報委員会で「たま通信」の発行を続けることができなくなり、会員の皆さまにご迷惑をかけることを心苦しく、お詫び申し上げます。幸いにも野口支部長の構想により会報が刷新され発行していただけることになりました。10周年を機に、皆さまの一層の協力を得て、すばらしい支部報に生まれ変わりますように願っています。

石塚 嘉一

山行・活動報告

＜6月平日山行＞

雨中、鹿が草を食べていた

6/20 黒川鶏冠山 13名

■行程/塩山駅南口 8:30⇒(タクシー)⇒9:10 落合登山口→(ハンノキ尾根)→10:15横手山分岐→鶏冠山最高点(1,716m)→11:20 鶏冠山神社 11:30→黒川山・鶏冠山分岐→黒川山→見晴台→13:10黒川山・鶏冠山分岐→横手山峠→13:47六本木峠→14:05梅の木尾根分岐→14:40柳沢峠⇒(タクシー)⇒15:30塩山駅■コースタイム5時間30分■参加者/L鬼村邦治, SL石橋学, 小野勝昭, 西村智磨子, 石川さとみ, 関口順子, 大沢則彰, 中尾理絵, 佐古明美, 中村正之, 前田明代, 植草由利, 小河今朝美

曇りの予報だったので決行となった。塩山駅からジャンボタクシー1台, タクシー2台で落合登山口に向かう。まだ工事中の所もあるが, 道路が新設され幅も広げられて走りやすくなっている。50分かかっていたのが30分に短縮されたようだ。

雨は、頂上へ登る急斜面で強く降り出した

登山口で全体の登山道の状況を説明のあと, 石橋SLを先頭に出発。空は明るくところどころ日が差してくる。道は整備されて歩きやすい。鹿の食害は相当なものだ。ネットが張ってある領域は植生が保たれているが, それ以外は下草が全然生えていない。すべて食べられているようだ。横手山への分岐のあたりで小雨が降り出し, 雨具をつける。鶏冠山の頂上へ登る急斜面で強く降り出す。木の根が表面に出ており滑る。慎重に歩を進める。



ガスが出て遠くの景色は期待できないので, 予定を変えて, 鶏冠山の急傾斜を下りた広場で昼食休憩。早々に退散し付近のつつじを愛でながら下山する。横手山峠を過ぎたあたりで1週間前の調査山行では熊に遭遇したが, 今回は鹿が2頭草を食んでいる。逃げもせずこちらを見ている。(文・写真/鬼村邦治)

■感想/地図を広げると, 登山教室で登った大菩薩峠,

山行で訪れた大蔵高丸があり, なつかしかった。ヤマツツジの鮮やかなオレンジ色が新緑に映え自然の美しさを改めて感じた。遠く2頭の鹿が木々の間を通り, 足を休めた。東山魁夷の絵を見ているようだった。(関口順子)

＜5月定例山行＞

イワカガミの急登をいく

5/11 滝子山南稜 20名

■行程/JR 笹子駅 7:59→8:30 桜森公園 8:36→南稜入り口 8:43→9:16 林道出合→12:20 滝子山山頂 13:10→13:50 檜平 14:05→16:04 滝子山入口→初狩駅(解散)コースタイム:約8時間■参加者/L 富永真由美, SL 石橋学 A 班:L 富永真由美, SL 西山さより, 川崎真琴, 中原三佐代, 小野勝昭, 清水茂美, 野口いづみ, 小川今朝美, 丸尾尚子, 長岡誠治 B 班:L 石橋学, SL 齊藤理恵子, 酒井俊太, 赤坂恵子, 清水義弘, 大沢則彰, 山内ひとみ, 佐久間マサエ, 中尾理絵, 松川信子

新緑の滝子山はとても気持ちの良い季節ながら, 南稜・寂悄(じゃくしょう)尾根は大変厳しい急登が続く破線ルートと聞き, 不安半分・楽しみ半分で参加した。寂悄苑を過ぎ林道を渡ると急登が始まる。緊張感が高まり, ここから山頂までの連続する岩場に三点確保を強く意識し対峙した。当然, 勢いよく体力が削られていったが, 参加者の路傍の花の話に気持ちが安らぐ。やはり, 皆で行く山行は楽しいと, きつい岩場の途中で再確認出来た。到着する頂上は一緒でも, コースが違えば, まったく違った山容を感じるものだなと, 改めて知ることが出来たとても楽しい山行だった。(文/長岡誠治)

三点確保して注意して登る

今回は, 従来のすみ沢沿いに登攀するルートと違って, 笹子駅から頂上につき上げる南稜を登る。笹子駅から, 甲州街道を大月方面に歩き, 吉久保入口から住宅街に入る。中央本線の陸橋下を通り, 稲村神社の角を曲がり, 更に中央自動車道の下をくぐる。途中, これから登る滝子山の全貌が左手に現れる。桜森公園から更に登って,



大鹿川を渡り、少し進むと右側に寂悄苑の看板がある。南稜の入り口である。しばらく行くと、右側に寂悄苑の建物があり、そこから竹林に入っていく。暗い森の中を通り、しばらく登ると、鉄塔が現れ、その横を通り、更に行くと林道とぶつかる。林道出合である。

この上から、いよいよ南稜登攀の中核前段階に入る。広葉樹林が広がり、気持ちよく登れる。寂悄苑入口から2時間ほど登った頃、最初の岩場が出てくるが、岩場といっても特に危険なところではない。三点確保して注意して行けば登れる。途中で鎖場が一か所ある。以前、この尾根を下りに使って、事故が起きているとのこと。更に登ると富士山や三ツ峠が見えるところに出る。

岩場を過ぎるとヒメイワカガミ、コミヤマスマシレは見られなくなる。浜立山への分岐を通過し、進んで行く。ロープの付いた急な斜面を越えて、もうひと登りすると滝子山の頂上に着いた。頂上は、霞がかかっているように周りの山々がぼんやりと見えるが、天気は申し分ない。大休止をとり、昼食。集合写真を撮って、下山にかかる。男坂を下り、檜平から登山口に戻り、初狩駅にて解散した。

(文・写真/酒井俊太)

<5月平日山行>

桐生“花の山”を観察

5/9 鳴神山 10名

■行程/JR 桐生駅北口「おりひめバス」吹上行きバス停→吹上バス停 9:45→駒形登山口 10:08→水場通過 11:02→肩の広場 11:40→11:53山頂(桐生岳) 12:30→12:50 棚田峠 13:15→14:35駒形登山口→14:51吹上バス停→JR 桐生駅 ■参加者/L 石橋學, SL 鬼村邦治, 小野勝昭, 中原三佐代, 西村智磨子, 酒井俊太, 佐久間まさえ, 近藤節郎, 人見茂子, 吉川三鈴

群馬県桐生市にある鳴神山の標高は1,000mに満たないが、カッコソウ、ナルカミスミレ、ヒイラギソウ、ヒトリシズカ、アカヤシオ、ミツバツツジ、ヤマツツジ等が自生する花の山。春のこの時期には新緑とともに、これらの花々が咲き乱れる別天地だが、遠い。5月の平日山行ではこの鳴神山に登った。

バス停を9時45分に発ってから、さらに林道を登山口まで30分弱かかる。さらに少し舗装路を歩いて山道へ入り、林間の緩い登路で高度を上げていく。中間地点まで約1時間たどり、やがて開けている水場に着いた。樹林内のヤマツツジや岩壁に咲くミツバツツジが美しい。

「肩の広場」の手前にナルカミスミレ

水場を通過し「肩の広場」の手前でナルカミスミレを一輪発見。広場の反対側に行くと、たくさん咲いていた。正午前に雷神岳神社のある山頂に出た。

男体山、皇海山、袈裟丸山、谷川岳、浅間山…。クリアではないが、広い展望があり、栃木・群馬県境の山々を眺めるよい展望台だった。12時30分には下山開始。

稜線のアカヤシオはすでに散っており、代わりにミツバツツジとヤマツツジが咲き始めていた。20分ほどで棚田

峠に到着後、荷を置いてカッコソウ群生地へ行ってみた。その場にいた保護団体の人から話を聞く。地下茎で増えること、花粉で増える四国のカッコソウとは全く別種で古い時代のもの。杉の植林を間引きたいが、絶滅危惧種に指定されて保護活動ができなくなっている等々。

(文/石橋學)

<4月定例山行>

富士見の山も富士見えず

4/20 愛鷹連峰・越前岳 14名

■行程/御殿場駅 8:30⇒(タクシー)⇒9:15 山神社登山口→10:15 大杉→11:20 割石峠→11:50 呼子岳→13:05 越前岳→13:50 富士見台→15:15 富士見峠→15:50 山神社登山口→16:25 バス停 ■参加者/内村直子, 中尾理絵, 大澤則彰, 丸尾尚子, 人見茂子, 山内ひとみ, 長岡誠司, 石川さとみ, 小野勝昭, 酒井俊太, 清水義浩(班 SL), 富永真由美(SL), 斎藤理恵子(班 SL), 西山さより(L)

予報では東海南部は晴れるとあったが、曇っている。少し冷たい風が吹くので上着を着こんだ。タクシーに乗り込んでも薄日は差すが、なかなか青空が広がらない。2班体制で登山口から10分ほど林道を歩く。ミツマタが終わりかけている。堰堤の先でゴーロの大沢を横切ると緩やかな傾斜が始まった。沢筋をゆっくり登っていきとやがて東沢との出会いだ。大小の石を積んだケルンをいくつか見送り樹齢300年の大杉の付近で休憩。

割石峠までは谷幅が狭くなり傾斜も増していく。突き上げた峠は蓬莱山への登路と越前岳への稜線の分岐点だ。割った石の間から、遠くは駿河湾が見える。晴れていれば右に左に展望広がる尾根歩きなのだ。馬酔木をくぐりながら歩いていると、厚い雲が近づき、風が吹き始める。すぐに呼子岳のピークに着く。高度感のあるアップダウンを繰り返して急登150mを登りきると越前岳だ。山頂で昼食をとる。富士山を見る山で富士山は見えない。下山道の鋸岳展望台は、位牌岳へ続く鋸状の稜線が眼前に迫るはずだが、雲に隠れていた。愛鷹山荘で両班足並みを



揃え、やがて山神社登山口の鳥居をくぐり周回登山を終えた。

(文/西山さより)

リーダー曰く、「古い山です」

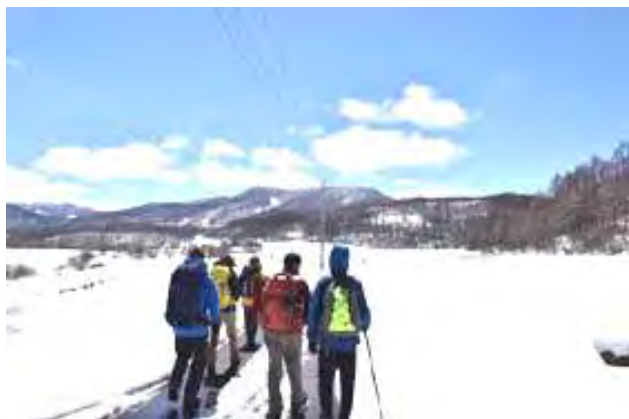
感想文/丸尾尚子 リーダー曰く、「古い山です」。豆桜、馬酔木、スミレが咲く山麓から涸沢へ。ガラガラした源頭部を過ぎルンゼの割石峠では駿河湾からの強い風を体感。雲となり雨を降らせ長い年月かけて連峰四方に谷を刻んだのはこの風なのか。自然の力は無限。谷間の細く長い稜線では開花前のイワカガミや愛鷹ツツジの群生、ブナ林、苔等、多様な植生が目を楽しませてくれる。出会う人も少なく静かな山行であった。

感想文/大沢則彰 今回の山行は技術・体力★★とあり、私にとってはワンランク UP の山へのチャレンジ。事前に4月10日の残雪を考慮して軽アイゼン準備のメールが届き、期待と不安が高まる。割石峠へ突き上げるこのコースはゴロ帯で浮き石やコケ石が多く、落石に注意しながら標高を上げて割石峠へ到着する。呼子岳より眼下に広がる斜面の全景は、自分が鳥になった様で迫力満点であった。富士見台に向う途中、木立の間より一瞬、雲の切れ間から富士の稜線が顔をだす。予定より早く下山、ゴールの山神社にお礼とこれから始まる★★の山行の安全を祈願した。

＜4月平日山行＞ 積雪踏み南アルプスを展望 4/11 飯盛山 6名

■行程/集合 JR 小淵沢駅 9:55⇒(タクシー)⇒10:25JR 最高地点(標高 1356m)⇒11:00 平沢峠(獅子岩)⇒12:10 平沢山手前(昼食)12:50⇒13:15 飯盛山山頂(1643m)13:30⇒15:10JR 清里駅 15:41⇒16:04 小淵沢駅(解散)コースタイム 4時間 45分 ■参加者/L 佐藤守, SL 鬼村邦治, 小笠原毅, 酒井俊太, 近藤節朗, 中江理絵

中央線にダイヤの乱れがあり、約 50 分遅れで小淵沢駅に到着。天候晴れ。予約していた大型タクシーに乗り込み出発した。タクシーのドライバーさんによると前日の



寒波による降雪で積雪は 30cm 程とのこと。車窓からは一面雪に覆われた畑と遠くに八ヶ岳。30分程で JR 最高地点 1,375m の石碑の建つ野辺山公園に到着。碑の前で

集合写真を撮り、平沢峠・獅子岩登山口に向けて歩き始める。

30分ほどで登山口に到着。獅子岩から八ヶ岳、赤岳を望み登山開始。30cmほどの積雪と強風(リーダー曰くそよ風)のなか、平沢山へ。1時間弱で到着。山の反対側ではそれまでの風がなくなりぽかぽかと春の陽気。東京方面から見るとは雪の付き方が違う富士山を見ることができて感激。朝の50分の遅れのため、飯盛山で予定していた昼食を平沢山でとることに。リーダーが作ってくれたラーメンを皆で美味しくいただきお腹いっぱいになり、飯盛山に向けて出発。

途中初めて、人と出会う。20分ほどで山頂に到着。360度パノラマで南アルプス、八ヶ岳、大菩薩嶺、富士山を望み、強風で山岳会の旗がはためく中、集合写真をパチリ。寒さのため早々に各自アイゼンやストックを準備し、清里駅に向かって下山開始。(文/中尾理絵, 写真/佐藤守)

＜自然保護委・植物観察会＞ 駅近くに春の花を見つける 4/25 長沼公園・平山城址公園 23名

■行程/京王線長沼駅集合 9:00→都立長沼公園→住宅街→都立平山城址公園→東京薬科大学薬草植物園・温室見学 12:00(昼食休憩)13:30→平山城址公園→住宅街→15:30 京王線平山城址公園駅(解散) ■参加者/講師笠松幸衛, 講師小河今朝美, 吉川三鈴, 吉田博子, 櫻井美奈子, 玉井明子, 嶋田恵美子, 大根菜津美, 諏訪久美子, 近藤節郎, 佐古明美, 安田令, 川口章子, 野口いづみ, 高間明子, 浅香利恵, 河野悠二, 北原周子, 岡義雄, 廣田博, 寺井成世, 前田明代, 都岳連ゲスト

2班に分かれて観察。公園入り口でウワミズザクラの説明を笠松講師から聞く。石垣にツボスミレ。西尾根コースにはタマノカンアオイ、ネコノメソウ、チゴユリ、シュンランなどが咲いていた。新緑のなかコジュケイ、ガビチョウの鳴き声が聞こえる。クロモジは、良い香りで覚えやすい。尾根道には、白い愛らしい花のコゴメウツギ、マルバウツギ、ワインレッドの花を付けた珍しいハンショウズルも見ら



れた。シャガは種でなく地下茎から増えるので土手に多く植えられていると教えてもらった。群生してきれいだ。

中尾根を降りていくと青いヤマドリソウが咲いていた。去年は群生していたのが根こそぎ無くなったそう。葉だけのサイハイランは、笠松さんから花が咲いた時の写真を見せてもらった。霧降の道を上がっていくと、目当てのキンランが出たばかりで小さめの花が咲いているのを楽しめた。ナルコユリ、チゴユリ、ホウチャクソウが足元に何回も見られ、違いを覚えた。ジュウニヒトエも満開だった。

大学の学食で昼食をとる

東京薬科大学の学食で昼食をとり、東京都で一番広い薬草植物園の入り口で、バナナの熟した香りがするカラネオガタマの花が一円玉のモデルの花だと廣田委員から教えてもらった。薬草園にはニリンソウ、タイツリソウやムサシアブミ、セリバオウレン、キクバオウレンが種になっていた。さらに平山城址公園の駅に向かう道で、笹を刈り取った後に山ウドが生えてきたと笠松さんから説明があった。キンランのほかに、ギンランは1株だけ見られた。駅から歩ける丘陵地、植生が豊かで貴重な場所を案内してもらい、素晴らしいキンランなどを見ることができた観察会だった。(文/前田明代, 写真/河野悠二)

<自然保護委>

本部自然保護委と合同で アツモリソウ保護活動 6/16~17 三ツ峠山 13名

■行程/16日:9:30 河口湖駅集合 9:50⇒(バス)10:20 三ツ峠登山口バス停→12:20 三ツ峠山荘(昼食)13:00→14:00 アツモリソウの観察・除草作業 16:00(日帰りの参加者は15:30まで作業後、往路から下山)17:00 夕食・中村山荘主人からの話 21:00 消灯、17日 5:30-6:30 三ツ峠山山頂付近散策・朝食 8:25 山荘出発→10:00 鉄塔→12:55 獣よけの柵から出る→13:20 富士急大月線・寿駅(解散) ■参加者/本部:川口章子, 小林敏博(日帰り), 下野綾子(日帰り), 多摩支部:河野悠二, 遠藤與志郎, 岡義雄, 高砂寿一, 岡田陽子, 小河今朝美, 茂呂よしみ, 吉川三鈴, 佐久間マサエ, 人見茂子(日帰り)

昨年から JAC 本部の自然保護委員会と合同になった。晴天に恵まれ、登山道では、エゾハルゼミの鳴き声が聞こえ、クマシデのホップのような果穂を所々に見ながら歩いた。ベンチがある休憩所には、ギンランが咲き、ヒメムウランも見ることができた。下見のとき咲いていたルイヨウボタンは、花は終わっていた。もうすぐ山荘という手前には、ワチガイソウは終わっていたが、ツルシロカネソウ、マイヅルソウ、サラサドウダンが咲いていた。

鉄柵はさらに有刺鉄線で覆い保護されている

三ツ峠山荘に到着後、昼食をとり、山荘ご主人で多摩

支部会員の中村光吉さんの案内で観察が始まった。鍵を開けて鉄柵の中に入った。保護されているアツモリソウは、たいへん珍しい1株に2つの花が咲いていて、マルハナバチによる受粉の様子を説明してもらった。その後、別の場所に移動。昨年より株数が増えて30株近くはあり



そんな群生があったが、まだ開花していなかった。ここは鉄柵で囲まれ、有刺鉄線で覆い厳重に保護されている。

テンニンソウの除草をする場所にはエゾタチツボスミレ、クルマバツクバネソウが咲き、ユキザサはまだ蕾だった。テンニンソウの根はとても太く、小さく見えるテンニンソウでも根はしっかり這っている。鎌で根を切りながらの除草作業を約2時間続けた。テンニンソウがあるとアツモリソウの菌がなくなってしまうという。ヤマドリゼンマイは、以前は抜いていたが、ヤマドリゼンマイの傍にあるアツモリソウは大株になることがわかってきたそうだ。

今回初めて参加して、登山で来ただけでは見ることができないアツモリソウを見せていただき、ほんのり甘い香りまで嗅ぐことができた。移植したら3年後には半分ぐらいの大きさになってしまうが、植物にはストレスに対する耐性もあり、その遺伝子を引き継ぐ話に植物の神秘性を改めて感じた。(文/小河今朝美, 写真/河野悠二)

同好会、グループ・個人山行

<6月沢登り同好会> 西丹沢10~15mの滝越え 6/16~17 大滝沢・マスキ嵐沢 5名

■行程/(16日)芦花公園駅前 13:00 集合⇒大滝キャンプ場(テント泊)(17日)キャンプ場 6:30⇒駐車スペース 7:00→7:35 マスキ嵐沢入渓→8:10 頃 2段 15m 滝→9:00 二俣→10:15 頃 10m 滝→11:15・尾根に抜ける→11:30 権現山々頂 12:00→南西尾根を下降し 13:15 駐車スペースに下山→14:00 山北町健康福祉センター(解散) ■参加者/L 中村哲也, SL 石橋學, SL 長門彰, 中村照代, 西山さより

予定した笛吹川東沢の釜ノ沢西俣右沢は、前夜半まで降り続いた雨に増水が見込まれ中止した。代替案として、流域が狭くて雨後の増水の心配がない西丹沢マスキ嵐沢を登ることになった。

朝、テント撤収後、大滝キャンプ場から林道を入渓点へ車で移動。7時過ぎに駐車スペースから東海自然歩道を歩き始める。30分ほどで朽ちかけた「マスキ嵐沢」の道標を見つけて入渓する。ナメ状の沢床を進み、4m滝を越えると滝場が始まった。小滝の連瀑帯を問題なく通過し、樋状の滝も越えて一つ目のハイライト、スラブ状2段15m滝に出た。ホールドやスタンスがヌルヌルして滑りやすいので、中村リーダーのリードでロープを出して登る。

2段9m滝を越えた後のスラブ状滝では、途中で水流の中をトラバースする。880mの明るい二俣まで上がって休憩。シャワークライムでウェアが濡れ、寒さを感じるが、このような解放的な沢は心地良い。

再度アッセンダーの登場で難なく越えた

ここから先は水量が減り、涸れた階段状の滝を越える。そして二つ目のハイライト、10m滝が現れた。ほぼ垂直で下部は少し被っている。再び中村哲也さんがリードし、再度アッセンダーの登場で難なく越えた。特段にテンションを掛けた訳ではないが、アッセンダーを使うと不安感が軽減される。過ぎると沢は涸れ、11:15頃に権現山の稜線へ突き上げた。そして11:30には権現山々頂に着いて大休止。装備を解除し下山準備をする。権現山は南面に展望が開け、遠く箱根の神山、近くは大野山と丹沢湖を見下ろせた。下山は、南西尾根を辿って駐車スペースまで下りた。車で山北駅近くの「山北町健康福祉センター」に寄って解散となった。(文/石橋學, 写真/中村哲也)

<5月沢登り同好会>

今シーズン初の沢登り

5/26 軍刀利沢 7名

■行程/8:20 武蔵五日市駅前⇒(マイカー)⇒9:10 矢沢林道沿い駐車場 9:25⇒10:05 入渓点⇒10:30 3mナメ滝通過⇒12:05 5m滝通過⇒12:20 昼食 12:45 下山開始⇒15:00 入渓点⇒16:30 入浴・反省会 ■参加者 L 長門 彰, SL 中村哲也, 石橋學, 石原和子, 中村照代, 比留間祐也, 濱野弘基

小規模ながら滝やナメがあり楽しめる

沢登り同好会としては今シーズン初の沢登りとなる。近場でクライミング講習を含む登りが出来る沢であること、小規模な渓谷でありながら滝やナメが複数あり楽しめるため、昨年に続いての企画である。

薄暗く涼しい風が抜ける中、大小の石が転がる沢道を進む。最初のナメ滝を過ぎると、土や岩石がむき出しの緩やかな壁がある。それを使い、30分程度ロープワークの復習を行った。1.5m程度の岩を上る際、丸太を頼りに登行を試みるも、流量あって滑り苦労した。10m程度のナメ滝は、各自で泥と岩の壁をよじ登り、左岸を高巻きして登る。12時5分、5mの滝を前にトップロープを張り、一人ずつ登行を行う。足



を滑らせる者もなく無事に通過をした。

25分程度、昼休憩をして下山開始となる。昨年は上流まで詰め三国峠へ出たが、暑さがあることと下降の練習をするために来た道に戻る事となった。下山は、大滝上でロープを張り、2チームで右岸と左岸に分かれ、懸垂下降で下りを行った。足を滑らせることなく無事に通過した。流れがある滝底に向けてロープを投げることや、支点の取り方も復習した。初夏の日差しが降り注ぐ中、15時には入渓点に戻った。(文/濱野弘基, 写真/中村哲也)

西上州のマッターホルンで <沢登り同好会> 岩稜歩きオフトレーニング

4/21 碧岩・大岩 5名

■行程/荻窪駅前集合 6:30⇒登山口 9:00⇒三段の滝下⇒碧沢出合⇒碧岩⇒ジャンクション⇒大岩⇒ジャンクション⇒下降点⇒碧沢出合⇒14:55 登山口 ■参加者/L 石橋學, SL 中村哲也, 中村照代, 長門彰, 比留間祐也

絶壁側に身体を振り出すように回り込む

オフシーズンのトレーニングとして倉岳山地図読み山行、巾着田でビバーク体験、日和田山女岩ガントレ、ジムトレ等を行ってきた。4月は沢シーズンを目前にして西上州のマッターホルン・碧岩と大岩で岩稜歩きを行った。

登山口550mから居合沢に沿い、三段ノ滝へ向かって細い山道を遡る。沢を右岸から左岸、そして右岸へと渡り返しながら辿って行き、ヒョングリ滝を鉄梯子で越えると正面に三段ノ滝を望めるようになる。滝を見ながら、左岸の急斜面を登って行くと、碧岩沢出合800mに着く。

滝の落ち口を通過し、900m地点付近で分岐に出合う。直進は2年前の同好会山行で通ったルート。今回は左折して右の尾根上を目指し急斜面を登る。尾根まで這い上がると北側が開ける。緩やかな傾斜の尾根をゆっくり辿って、ジャンクションと碧岩を結ぶ尾根上の、ボルダーの基部に出る。ここでハーネスとヘルメットを装着した。

まずは碧岩を目指して登る。4~5mほどある下の岩場(固定ロープあり)を右側から左に回り込みながら登る。すると直ぐに、丈夫な固定ロープも垂れ下がっている10mほどの上の岩場となる。右の絶壁側に身体を振り出すよう

に回り込んで取り付く。初めの数歩が核心で、ここを乗り切ればあとは比較的楽に登れる。登り着いた山頂には広い展望が待っていた。下りは上の岩場では懸垂下降で、下の岩場はフリーで下る。登りで辿り着いた鞍部で12時を回っていたので、食事しながら休憩して長閑な雰囲気を楽しんだ。

20分ほどの休憩の後、もう一つのピーク、大岩へ向かう。両側が切れ落ちた岩稜を稜線通しに進んで行くが、高度感があって爽快だ。山頂からの展望は碧岩のそれと同様の開放感があふれ、あたり始めた日射しがヒトツバナを浮きあがらせている穏やかな山頂だった。

(文/石橋學)

<低山を楽しむ会/6月山行会>

1万本のあじさいを楽しむ

6/21 南沢あじさい山 11名

■行程/JR武蔵五日市駅集合 10:00→11:00 深沢地区・南沢あじさい山(昼食) 12:30→金毘羅山への林道→金毘羅尾根→琴平神社 13:00→五日市郷土館→15:30 魚治→五日市駅 ■参加者/L 本多祐造, 石塚嘉一, 岡義雄, 河村光子, 河野悠二, 小清水敏昌, 田中清介, 辻橋明子, 富澤克禮, 西谷可江, 松本恒廣

梅雨の曇り空の下、午前10時に武蔵五日市駅に11名が集まった。メンバーのうち、西谷可江さんが1年振りの山だ、川村光子さんも久しぶりだとお互い言いながらニコニコして参加したのが印象的。駅から歩き始め山里の新緑に囲まれた一般道に沿って皆で今日の目的地の「南沢あじさい山」へと向かった。

昨年春に本多農園の「のらぼう摘み」をした時に通った深沢地区への道を、三内川に沿って穴沢神社で一休みして、道の両側にはあじさいが鮮やかな色の花をつけているのを見ながら、深沢家屋敷跡への道への分岐を左に入るとすぐに「南沢あじさい山」に着く。

南沢さんが個人で所有して維持している

入口で500円を払って中に入る。南沢さんが個人で所有して維持しているの、「入山料」がちょっと高い。捕獲されたタヌキが一匹オリの中でせわしく動いていた。ここはあたり一面いたるところに青や白の紫陽花の大きな花が見事に咲いていた。園内で昼食。その後、金毘羅山



を目指して、一万本といわれるあじさいが植わった山道を登っていく。かなりの急な登りであったが、上がったところで林道に出た。金毘羅山への尾根道を歩いて行くと、ひっそりした小さな琴平神社に着いた。ここから急な下道を注意して、1時間かけて五日市の町に下りた。

少し歩いて「五日市郷土館」を覗く。「五日市憲法」についての写真や関係した人物などの展示をしていて、ゆっくり展示を見て、五日市駅への途中にあるいつもの店(魚治)で懇親会に立ち寄る。(文/小清水敏昌)

<低山を楽しむ会/5月山行会>

関東ふれあいの道をゆく

5/16 秩父 美の山 6名

■行程/秩父鉄道 親鼻駅集合 10:30→萬福寺→美の山への山道→見晴園地→美の山(蓑山 587m)頂上・美の山公園→林道歩き→下山集落上→和銅採掘露天掘跡→秩父鉄道 和銅黒谷駅→御花畑/西武秩父駅 16:30 解散 ■参加者/GL 本多祐造, L 石塚嘉一, SL 辻橋明子, 川口章子, 富澤克禮, 松川信子

不動明王は秩父十三仏に数えられている

登山口まで立川から2時間ほどかかるので、「低山を楽しむ会」の山行としては、ずいぶん遠くに行く気がしたが、親鼻駅に降り立ったたら、やはり秩父線の駅の雰囲気だった。

3時間ほどのコースなので、駅からすぐのところにある萬福寺をまずゆっくり拝観。不動明王は秩父十三仏に数えられている。30分ほど歩いて美の山への山道を、このメンバーにとっては所々、ちょっとハードな登りもあるが、広葉樹の間を、ゆっくり登って行った。山道のすぐ脇に何か所もギンランが花を咲かせ、キンランもササバギンランも見られて予期しないよい山歩きになった。松川さんが見つかりにくい場所に、ハンショウヅルの花を見つけてくれて、まだつぼみのイチヤクソウも見られた。

やがて仙元山からの道が合流して、登り始めて1時間ほどで見晴らし園地に到着。一足先に急いで登って、作ってくれた辻橋さん特製の、ブリの身や野菜など具が



たくさん入った粕/味噌汁をみんなでもらって、昼食にす

る。秩父盆地を見下ろせて、文字通り見晴らしの良いここからは武甲山が目の前に、遠くにギザギザの稜線の両神山が見える。川口さんの苺のデザートをいただいて、美の山公園として整備された頂上へ。ヤマツツジが山道のいたるところに彩りを添えていた。

林道歩きに疲れて、下山集落まで下ったところで、和銅遺跡に立ち寄る。日本で初めて自然銅が発見され、露天掘りで掘り出し、708年(慶雲5年)に朝廷に献上され日本初の流通通貨「和同開珎」ができたといえられる歴史的な遺跡。和同開珎の巨大なモニュメントの前で写真を撮って、露天掘りの跡をしばらく眺めて、和銅黒谷駅に出た。2008年に、和銅奉獻から1300年を記念して和銅黒谷に改名された。それまでは黒谷駅といった。この周辺の地名は今でも黒谷である。(手元の20年前の「山と高原地図」には黒谷駅となっている。)(文・写真/石塚)

＜低山を楽しむ会/4月山行会＞

鎌倉時代の古道を歩く

4/19 箱根湯坂路 7名

■行程/10:00箱根登山鉄道小涌谷駅→千条の滝→浅間山→湯坂路→湯坂城跡→箱根湯本(歩行時間約5時間) ■参加者/L 辻橋明子, SL 石塚嘉一, 富澤克禮, 川口章子, 小清水敏昌, 松川信子, 田中清介。

「箱根 湯坂路を歩く」の計画を聞いたときに、迷わずにすぐに参加申し込みをした。2月2～3日に箱根宮ノ下



で毎年恒例の家族旅行をした。3人の娘達の家族と小生の4家族、計12人だ。ちょっとした雪山気分を味わい楽しく歩いた。残念だったのは時間がなく湯坂路への下りが宿題として残った。この日は、天気は晴れでハイキング日和、リーダーの辻橋さんの晴れ女の効果は絶大のようだ。つま先上がりの道を20分ほどで千条の滝に着く。

鷹ノ巣山の頂きは、のっぺりとした草原

少し先の分岐で、やや遠回りになるが、浅間山に直行しないで鷹ノ巣山への道に登ることになった。植物に詳しい松川さんにアリアケスミレ、ニオイタチツボスミレ等を教わりながらの登りは、さほど苦にならない。分岐から40分程で、湯坂路に合流した。歩き始めてから1時間15分。小休止の後、鷹ノ巣山に向け出発、20分ほどの登りで標高834mの鷹ノ巣山に到着。

ここは、豊臣秀吉の小田原攻めに備えて後北条氏が城を築いた所とのことで、のっぺりとした草原の山頂である。40分間の昼食休憩、集合写真を撮る。

先程合流した小涌谷分岐まで戻る。そこからは、浅間山に向けて幅広い防火帯を少し登る。宮ノ下への分岐を過ぎて、右にカーブしたところが浅間山である。ここも、目立ったピークはなく、広々とした草原風の山頂である。ハコネザクラが満開で、ここで小休止。

ここからは広い防火帯を下り一方である。10分ほどで大平台への分岐があり、途中、ニオイスミレ、ナツウダイ等の植物を観察。時には、満開のサクラの下を、緩やかな一本道をどんどん下る。石畳の下り坂をすぎ、浅間山から1時間50分程で北条氏の出城の湯坂城跡に着く。ここで、小休止。ここからは、歩き難い石畳の急な下りがジグザグと続く。20分ほどで国道1号線の登山口に出た。

(文・写真/富澤克禮)

＜山と酒の文化を尋ねる会＞

「高尾山」の蔵元を尋ねる

4/1～2 あきる野・中村酒造 10名

3回目の山の名のついたお酒の蔵元見学会の報告です。通常は山に登った後、蔵元を見学するのですが、今回の対象は「高尾山」なので、登山は省略、代わりに奥多摩BCに前泊して「お酒の造り方」の勉強会を行った。

■4月1日勉強会 参加者/土井充, 石井秀典, 植草由利, 河野悠二, 田中清介, 岡義雄

土井講師による「酒の作り方」について、自作のテキストに沿って、その基礎と製法や原料の違いによる名称と分類について解りやすい説明で、一同ますますお酒への興味を深めた。圧巻だったのは、製法が全く同じで、原料の米の銘柄だけが違う(山田錦と五百万石)お酒を飲み比べてその味の違いにびっくり!その後は、仲間が差し入れてくれた「高尾山」、「宝永山」、「雲取山」などを試飲しながら、理論と実習の楽しい勉強会だった。

濾過された多摩川山系の水を汲み上げている

■4月02日 蔵元見学会 参加者/石塚嘉一, 河野悠二, 松本恒廣, 岡義雄

見学会を予約するときにこの会の趣旨を伝えておいたら、忙しい最中に杜氏の方から直々に詳細の説明があり、製造現場で杜氏が利き酒を行うような一室で試飲をさせてもらった。杜氏の利き酒は、口に含んだ酒は口の中で転がして味や香りを確認した後は飲み込まないで吐き出すのだが、そのための漏斗と壺まで用意してあり、ちょっと面食らってしまった。

主原料の米は、流通機構の発展でどここの材料も入手できるが、水は使う量が多いので運ぶわけにはいかない。中村酒造では、秩父古生層で濾過された多摩川山系の水を地下から汲み上げている。食べて美味しい米と、酒に相応しい米が異なるように、飲んで美味しい水と、酒に相応しい水は異なるようである。そういえば、地元で沢山の酒造会社があるのは、この多摩川山系の水が酒造に適しているためらしい。

酒造りには、米、水などの主材料の他に、温度、湿度など麹菌、酵母の増殖を管理する要素が多く、手造り産業であることがあらためてよくわかった。数年前に八海酒造を見学した時に、米の質を管理するために田圃に撒く肥料の種類まで管理している話を聞いたことがある。やれ、どこの酒は高い割には美味しくないとか、水っぽいとかお客の立場で文句を言っていると、誰かさんに叱られそうに思えてきた。

中村酒造は、JR 五日市線秋川駅の南へ 10 分。主銘柄は「千代鶴」。山の名前に関係した酒では「高尾山」や「奥多摩」など造っている。将来は、生産中止している「日の出山」も手掛けたいそうである。（文・写真/岡義雄）



＜雪山を楽しむ会＞

尾瀬ヶ原を横断、桧枝岐へ

4/27～29 至仏山・燧ヶ岳・駒ヶ岳 9名

■行程 ◇1日目 8:35 沼田駅⇒戸倉⇒鳩待峠 11:05→13:45 小至仏山→15:05 至仏山山頂→17:10 山ノ鼻小屋(泊) ◇2日目 山ノ鼻小屋 5:05→7:50 尾瀬沼分岐→13:15 燧ヶ岳山頂(柴安岳)→14:00 俎岳→16:30 尾瀬御池→桧枝岐(ますや旅館泊) ◇3日目 桧枝岐 7:00→7:15 滝沢登山口→11:20 会津駒ヶ岳山頂→14:10 滝沢登山口 ■参加者/L 佐藤守, SL 西山さより, SL 斎藤



理恵子, 小野勝昭, 鬼村邦治, 小笠原毅, 清水茂美, 広瀬雅則, 赤坂憲子

3月下旬から降雪・低温の日が続いたため積雪量が例年より多く、至仏山の山ノ鼻側階段・尾瀬ヶ原の木道とも雪の下に埋もれていた。

何度も耐風姿勢をとる

至仏山 (天候/風雪・視界不良) 鳩待峠からは予報どおりの風と雪、好転の兆しもないと感じた。黙々と標高を上げていく。巻かずに尾根を上がると小至仏山だ。すぐに岩稜帯の稜線、強風を受けながら至仏山へ向かう。何度も耐風姿勢をとる。至仏山山頂に皆で立てたとき気持ちがほどけた。あとは下るだけだからと考えたのは甘かった。状況は変わらず吹雪かれると四方八方真っ白になる。どこが果てでどこが下なのか。先頭のリードに従い、間を開けぬようにして下る。樹林帯が眼下に見えてきた時心から安堵した。残雪期の至仏山、天候不良で厳しい貌を見た。（西山さより）

眼下は、山また山の 360 度遮る物もないパノラマ

燧ヶ岳 (快晴) ひんやりとした朝の空気が気持ち良い。今日は尾瀬ヶ原を横断、燧ヶ岳を超えて檜枝岐までの長い道のりである。朝食の弁当を持ち早朝に小屋を出発。10cmぐらいの新雪の中、尾瀬ヶ原の雪原を進む。雪原の下で水芭蕉も春の来るのをひっそりと待っているのかなと思いながら、黙々と歩く。振り返れば、昨日ホワイトアウトの中苦労して下った至仏山の斜面が見える。正面にはこれから登る燧ヶ岳が見えている。

尾瀬ヶ原を横断して燧ヶ岳への緩やかなブナの林を進み、途中から沢を進む。傾斜が強まり沢も広がると急に乗越に着いた。正面に小ピークが見え何人かの人達が見えている。燧ヶ岳から降りる稜線の末端である。稜線に出てからは尾瀬ヶ原を眼下に見下ろしながら進み難なく燧ヶ岳の頂上に達した。

眼下に尾瀬ヶ原を見、周りは山また山の 360 度遮る物もないパノラマである。小さなピークになぜ、多くの人達がいるのかと思っていた謎が解けた。北面は広々とした山スキーに絶好な斜面だったのだ。最後の高みを楽しんだ後下りにかかる。姫田代の林の中を通過して尾瀬御

池には4時に着いた。宿からの迎えの車で桧枝岐ますや旅館へ。
(文/小笠原毅)

「11時30分には下山」を前提に登る

会津駒ヶ岳 (快晴) ますや旅館で美味しい夕食、温泉、ふかふかのお布団と、旅館で二日間の疲れが癒された。予定を話しあった。帰りのバスの時間を考えると会津駒ヶ岳の頂上には踏むことができないかもしれない。11時30分には下山すると決めた。登山口から急な階段を上がると雪が出てきた。積雪は30～50cmぐらいだろうか、融けたところやサラサラの雪だったり、斜面によって変化する。踏み跡がたくさんある。特に危ない所はないが登り一辺倒だ。早く歩いて11時30分までにピークへと思うが3日目となると脚が重い。汗が吹き出る。水場で休んだあと、さらに急登になる。途中からAチームの3人が先を急いだ。私たちBチームは1,993mのところすでに11時15分、せめて肩の小屋まで行きたかったがここまでとした。Aチームから無線連絡が入り、小笠原さんは頂上まで、西山さんと赤坂さんは肩の小屋まで行けたという。

花の季節にリベンジしようとみんなで誓い休憩後下山

を開始。途中、尻セードで子供のようにすべり降りた。下山は早く、あっという間だった。登山口の階段へ到着。道沿いにはフキノトウ。路線バスから眺める満開の桜がとても綺麗だった。
(文/清水茂美)

〈海外登山研究会〉

中華民国健行登山會主幹で 太魯閣溪谷・合歡山ハイク

海登研は、6月1～5日、中華民国健行登山會主幹のアジア山岳連盟オプションツアーとして、台湾太魯閣溪谷・合歡山ハイクを行った。参加者23名(男性7名、女性16名)。溪谷ウォークと高度3,200mのハイクを楽しんだあと、中華民国健行登山會創立50周年記念祝賀会、アジア山岳連盟交流パーティに出席するなどして、アジアの山岳関係者と国際交流、5日間を楽しく過ごした。

(神崎忠男)

登山教室

〈第8期登山教室〉

梅雨空の下、最初の実習

6/8 三頭山38名(受講生24名)

■行程/立川駅北口⇒(貸切バス)⇒都民の森駐車場⇒森林館⇒三頭大滝⇒ムシカリ峠⇒三頭山避難小屋⇒三頭山(西峰)⇒ムシカリ峠⇒森林館⇒都民の森駐車場⇒(貸切バス)⇒立川駅北口 ■参加者/(1班)昭川明美, 相川佳昭, 大澤啓子, 茅野修一, 原島朝雄, 三原美佐江, 吉田望, 渡部智子, 班L内藤誠之郎, 班SL中村照代, 講師宮崎紘一, 野口いづみ, SP吉川三鈴(2班)天野泰三, 片野奈都子, 久保嶋絵里, 小久保昌子, 後藤昭子, 白川まり, 高田享子, 山本由美, 班L富永真由美, 班SL石原和子, 山行L武藤篤生, SP竹中彰, 山内ひとみ(3班)岩井弘美, 郡司典子, 塩谷雅子, 善田康雄, 田村郷子, 田村満利, 野村雅子, 平野泰江, 班L山本憲一, 班SL広瀬雅則, SP浅香利恵, 大澤則彰

初心者向け登山講座をベースにして実際の登山を通し



て理解と技術を向上させることをめざした実習だ。登山講座受講生40名のうち29名が受講した。

立川から貸切バスに乗り三頭山の登山口に向かう。梅雨入りして間もないこともあり、奥多摩周遊道路は小雨とガスに包まれていたが、都民の森駐車場に着く頃には霧雨も上がる。ハイカーの少ない遊歩道を三頭大滝まで進み、滝を見たあと、地図とコンパスの基本的な使い方の実習を行う。地図で行程を確認した後に登山道に入り、沢沿いの道を進むが、ムシカリ峠への登山道半ばで天候が急変し大粒の雨が落ち始める。班リーダーの指示を受け、あらかじめザックの上部に移してあったレインウェアを素早く装着。一旦弱くなりかけていた雨はムシカリ峠を経て避難小屋に着く頃には再び雨脚が強まる。小屋の中と軒下に分かれて昼食をとる。

行程もやや遅れ山頂での展望も期待できないので山頂を経ずに下山することを検討するが、雨も弱まりつつあるので各班順番に山頂に向けて出発する。ギンリョウソウやギンランを眺めながら急登を進み山頂に到達する。空は厚い雲で覆おおわれていたが、奥多摩側の空は雲が途切れ、石尾根の一部や青空が顔を出している。記念写真の背景は好天の山行のようだ。展望が悪く山座同定などはできなかったが、次の課題とし靴紐を締め直して下山にかかる。

(文・写真/武藤篤生)

〈第7期登山教室〉

山研に泊まり岳沢に登る

5/18-19 上高地・岳沢39名(受講生27名)

■行程:5/18 立川 6:55⇒12:05 上高地 12:15⇒12:30 山岳研究所(昼食) 13:30⇒14:45 明神 14:55⇒16:15

山研(泊)5/19 山研 6:55→10:35 岳沢小屋(昼食)11:15→13:40 岳沢登山口→13:50 山研→上高地 15:45→20:30 立川 ■参加者(1 班)長田晴人, 上市博子, 茅野修一, 菅野玲子, 高橋恭治, 原田義一, 村上京子, 矢野真由美, 班 L 小河今朝美, 班 SL 広瀬雅則, 講師宮崎紘一, SP 小澤知信(2 班)暁誠志, 上田瑠美子, 川合薫, 小林美喜, 菅野浅代, 菅野尤人, 富山猛, 長岡誠治, 元木尚子, 山本曜子, 班 L 中原三佐代, 班 L 小山幸勇, 山行 L 河野悠二, SP 竹中彰(3 班)小泉明夫, 高岡洋子, 中尾理絵, 中村美春, 西岡茂子, 馬場俊彦, 日向明人, 藤本浩文, 皆川直美, 班 L 土井充, 班 SL 中村敦子, SP 山本憲一, SP 中村美奈子

第7期初級登山教室としては初めての宿泊山行である。山研開所で訪れた人の情報で今年は雪が多く、登山道にも残っているというので軽アイゼンを持参させた。今回から山行記録を取って提出を宿題にした。貸切バスで立川を出発して順調に上高地に入る。やはり雪はいつもより多そうだ。梓川沿いの歩道に出ると穂高連峰が望め一斉に歓声が上がる。山研に入って昼食とする。

沢の中のイワナや直ぐ近くでのウグイスの鳴き声

明神までの散策に出る。種々の花などが見られるものの、今年は花が少ないようだ。明神で枝に止まったキビタキが人前でも逃げず、皆が一斉にカメラを向ける。その先ではニリンソウの大群落にホットする。これで受講生も大満足。明神橋を渡り梓川右岸を行く。ここでも沢の中のイワナや直ぐ近くでのウグイスの鳴き声、姿に感動する。山研に戻り食堂に入ると、豪華な食卓にまた感動である。女性スタッフの奮闘に感謝。受講生との懇親を兼ねて夕食がスタートした。食事とアルコールと歓談で大いに盛り上がる。食事の片づけも皆で協同作業だ。それぞれ心地よい眠りに入った。

2 日目、早々と朝食の準備をする女性スタッフが起きた。朝焼けを見に早朝に山研から河童橋まで出てみる。やはり朝の空気は冷たく気持ちが凜とする。朝焼けはなかったが天気は良く、穂高連峰が望まれる。山研に戻り朝食後、後片付けと掃除、荷物の整理などをして、出発する。

風穴手前辺りから雪が現れ、一部凍結している。慎重に通過をして高度を稼ぐ。途中登山道脇のガラ場まで来ると一気に展望が開ける。紺碧の空に高峰が冴え、この上ない展望である。乗鞍岳、霞沢岳方面の展望も素晴らしい。更に高度を稼いで雪渓に入って、軽アイゼンを着用。少し雪が柔らかくなり始めている。受講生にとって初めてのアイゼン歩行となる。歩行などを重点的にアドバイスする。

岳沢小屋では、360°の展望を楽しんでの昼食となる。集合写真などを撮り、名残惜しいが下山を開始する。雪渓部分および一部岩が露出した登山道をアイゼン着用で歩行してもらった。途中でアイゼンを外す。登りで凍結していた部分も、溶けて大分歩きやすくなった。治山道路に出てホットする。(文・写真/河野悠二)

登山道は積雪・凍結 <中級登山教室> テント泊も重いザック軽々と 4/6-7 瑞牆山・金峰山 14 名(受講生 10 名)

■行程/第 1 日瑞牆山荘 10:00→10:50 富士見台小屋 12:00→14:45 瑞牆山山頂→17:00 富士見台小屋, 第 2 日富士見台小屋 5:00→9:00 金峰山山頂 10:00→12:45 富士見台小屋→14:30 瑞牆山荘 ■参加者/講師: 宮崎紘一, 北島英明, 中村正之, 佐藤守(A 班)L 中原三佐代, SL 清水茂美(1 日目), SL 比留間祐也(2 日目), 小河今朝美, 西山さより, 青木義仁, (B 班)L 齊藤理恵子, SL 村岡庸子, 植草由利, 内藤誠之郎

8 時 40 分、2 年目に突入した中級登山教室で鍛えられたメンバーのザックはどれも大型で、テン泊と防寒装備に、宴会時の嗜好品が詰まったザックを軽々と担いで、韭崎駅に集合した。2 台のジャンボタクシーに分乗して、約 1 時間で瑞牆山荘前の登山口に到着した。登山口で待ち合わせの北島講師と合流。

まずはテント泊予定地の富士見平小屋へ向けて出発。青空が広がり、暖かな日差しの下を歩き、50 分で富士見平小屋へ到着。テントを張る場所に積雪はなかった。瑞牆山へ向かう前に、テント設営。不慣れなメンバーも多く右往左往しながら 30 分ほどで3張のテントの設営が完了したが、宮崎講師から「テントの設営がダメ、学生だったらやり直しをさせる。自分のテントの設営が終わっても、他の人が設営をしていたら手伝う」とアドバイスがあった。

12 時、瑞牆山へ出発する。テント装備等を下ろした軽量のザックやアタックザックで山頂へ向かうメンバーの足取りも当初は軽やかだったが、20 分ほど歩くと登山道の凍結箇所が増えてきて滑らないようにゆっくり慎重に歩いた。転倒してしまうメンバーもでた。その後アイゼンを装着して、桃太郎岩を通過して積雪の急登を超えて 14 時 45 分瑞牆山山頂(2230m)に到着。引き続き天候に恵まれ、日差したっぷりの気持ちがいい山頂に名残惜しいが、長居はせずに富士見平小屋に戻った。

夕飯は各自分担して持ち寄った材料で中華丼。2 張のテントに分かれて夕食づくりをする。下処理をした食材を冷蔵庫に忘れてきたり、白菜が大きかったりというトラブルもあったが、嗜好品と共においしく楽しい夕食になり、無事に 1 日目が終わった。

翌日 5 時、就寝したテント内でお湯を沸かし各自朝食を済ませてから、ヘッドンを装着して金峰山へ出発する。昨日の瑞牆山同様にテント内に不要な装備を残して積雪がない登山道を進む。徐々に陽が登ってきて、ヘッドンは不要になったが、30 分ほど歩くと登山道に凍結箇所が増えてアイゼン装着が必要となった。大日小屋、大日岩など通過の際は眺望が期待できなかったが、砂払ノ頭を過ぎて金峰山の山頂が近づくにつれて、日差しが出てきて、眺望への期待も膨らむ。9 時に山頂

(2,592m)に到着した。記念撮影と昼食を済ませて、下山開始。途中アイゼンが複数回外れるトラブルもあったが、12時45分富士見平小屋に戻った。(文/青木義仁、写真/中原三佐代)

<修了生補習山行>

富士を見て雪の稜線に行く 4/13 竜ヶ岳 37名(4,5期終了生23名)

■行程/立川駅北口 6:50⇒(バス)⇒8:40 本栖湖キャンプ場 9:20⇒11:05 石仏 11:15⇒12:35 山頂(昼食) 13:25⇒14:20(軽アイゼン装着) 14:30⇒16:10 本栖湖キャンプ場 16:30⇒(バス)⇒19:00 立川駅北口(解散) ■参加者 4期生 10名, 5期生 13名, 山行L 中原三佐代, 総括L 宮崎紘一, (1班)班L 小河今朝美, 人見茂子, 三井祐子, 諏訪久美子, 高間晃子, 矢澤大史, SP 西村智磨子, SP 吉川三鈴(2班)班L 比留間祐也, 山内ひとみ, 今野英美, 小澤知信, 大根菜津美, 馬場久子, SP 河野悠二, SP 中村敦子(3班)班L 青木義仁, 小池清次郎, 解良知子, 国安薫, 浅香利恵, 前田明代, 森 英昭, SP 山本憲一, SP 野口いづみ(4班)班L 内藤誠之郎, 関口順子, 石川さとみ, 指田久子, 菊地美奈子, 玉井明子, 大澤則彰, 寺井成世, SP 中村正之, SP 佐久間マサエ

山行3日前の寒波で、河口湖周辺では降雪があった。雪の状況を富士河口湖観光課と本栖湖キャンプ場に問い合わせた。アイゼン、ストック、スパッツの携行を決め、メールを流す。山行当日は、移動性高気圧に覆われ、風も穏やかな絶好の登山日和になった。



本栖湖キャンプ場に到着し、野口支部長のお話のあと、1班から出発。中村正之スタッフからアミノバイタルのプレゼント。登山口から雪が残っていて、キュッキュと踏みしめながらゆっくり登る。

雪がどんどんとけ川の中を歩いているかのよう

谷側の斜面の木々の間から本栖湖が時折見える。稜線に上ると、傾斜がゆるくなり展望台になっている平坦地で休憩をとる。目の前に大きな富士山が現れ歓声が上がる。みんなの笑顔が私の活力になると感じた。ここから富士山の眺望が山頂まで続いた。しかし、気温上昇と遮るものがない登山道でどんどん雪がとけ川の中を歩いているかのようなグチャグチャの足元を、気を付けながらさらにゆっくりと山頂を目指した。

予定より少し遅れて、真っ白な山頂に到着。山頂がグチャグチャでなくてよかった。昼食をとり、写真撮影。4期も5期も仲が良く微笑ましい。期をこえて仲間を作り、山岳会で長く楽しんでほしいと切に思った。

下山はピストンの予定だったが、あまりの悪路に北斜面の湖畔コースに変更。標高1,300mあたりでアイゼンを装着、周遊道路近くの登山口に無事下山した。初めてのリーダー体験であったが、気づき、学ぶことがたくさんあり、このような機会を与えてもらって感謝いっぱい

の山行であった。(文・写真/中原三佐代)

感想1 すっきりした青空の下、鳥のさえずりを聞き、壮大な富士山を見ながら歩いた。竜ヶ岳山頂は一面、雪で真っ白だったが、風もなくとても穏やかで、富士山はもちろんのこと、南アルプスや八ヶ岳連峰などとても素敵な展望を楽しむことができた。(4期・指田久子)

感想2 終始笑顔で迎え送ってくれた雄大で見事な富士山を、爽やかで心地よく吹き上げる春風を、忘れかけていたアイゼン歩行の感触を、4期・5期の仲間体験させていただいた。歩行スピード、休憩ポイント、休憩時間の周知、雰囲気づくり等、中原リーダー、各班リーダーの気遣いのおかげで、参加者全員で、富士山のみならず、八ヶ岳、南アルプスに至る360度の絶景を満喫することができた。(5期・小澤知信)

サテライトサロン

<多摩サロン報告>

エベレスト初登頂検証

5/29 18:30～

聖蹟桜が丘「関戸公民館」

来年2020年は日本山岳会がエベレストに登って50周年を迎えるに当たり5月29日、世界で初めてエベレストに登った英国登山隊の研究発表会を開催。ヒラリー卿の息子が、父の登山を再現した映像をみてもらい、30年間7度の登山隊派遣で登れなかった苦難を検証しながら、隊の人間関係など登山の原点をふりかえった。解説 嵯峨野宏(日本山岳会エベレスト隊員)

掲示板/山行・イベント詳細計画

※計画は2019年7月15日までに得た情報に基づき編集したものです。以降の変更にご注意ください。

<山行委/定例山行>**◆北岳 8/24~25 ★★★/★★★★**

この夏、日本第二の高峰の頂へ!◇集合/広河原 06:30◇(1日目)広河原→大樺沢二俣→八本歯のコル→北岳山荘(泊)(2日目)北岳山荘→北岳山頂→北岳肩の小屋→草スベリ→白根御池→広河原◇歩行時間(1日目)9時間30分(2日目)8時間30分◇広河原までのバス便(新宿発夜行or前泊・甲府駅発など)の予約は各自で◇申込/内藤誠之郎、締切 8/14, 16 名まで。

◆唐松岳・五竜岳 9/14~16 ★★★/★★★★

壮大な展望の山稜を行く◇集合 9/14 13:00 八方高速バス停(バスタ新宿 7:35 発白馬 12:48 着)バスの予約は参加者各自で。バスタ新宿→高速バス⇒八方ゴンドラ乗り場⇒(ゴンドラ)⇒八方池山荘(泊)(2日目)八方池山荘→八方池→丸山→唐松岳頂上山荘→唐松岳→唐松岳頂上山荘→五竜山荘(泊)(3日目)五竜山荘→五竜岳→五竜山荘→大遠見山→小遠見山→地蔵の頭→テレキャビン⇒(ゴンドラ)⇒とおみ(スカイプラザ)解散。高速バス停五竜 16:42⇒バスタ新宿 21:43◇歩行時間(1日目)1時間(2日目)10時間(3日目)9時間◇申込/酒井俊太、締切 8/31, 12~13 名まで。

◆御座山 10/5 ★★/★★★

針葉樹林の紅葉と、岩峰の対比が鮮やかな佐久の名峰。長者の森コース往復、歩き甲斐のある山行◇集合/分倍河原駅東口 06:00⇒長者の森登山口→白岩分岐→見晴台→前衛峰→14:20 御座山(2112m)→前衛峰→見晴台→白岩分岐→長者の森登山口 17:30⇒21:30 分倍河原駅東口◇歩行時間 7 時間 30 分◇申込/青木義仁、締切 9/30

◆浅間隠山・鼻曲山 11/9~10 ★★/★★★

浅間山の展望台2座と温泉宿を晩秋に満喫◇集合/JR・京王線高尾駅南口モバ―ガー付近合(チャーターバス乗車)07:30◇1日目/浅間隠山登山口→市倉尾根分岐→→浅間隠山山頂→浅間隠山登山口, 2日目/二度上峠登山口発→氷妻山→鼻曲山 山頂→天狗坂分岐→留夫山→登山口→熊野皇大神社駐車場◇歩行時間/1日目4時間, 2日目6時間◇宿泊費 9,290 円, 交通費/往復バス 5,500 円◇申込/濱野弘基, 締切 11/1

◆大峰・泣き坂の頭 12/14 ★★/★★★

自然溢れる急坂◇集合/JR 大月駅 08:00◇大月駅 8:20⇒(京急バス)⇒上和田→水無山→大峰→13:10 泣き坂の頭(昼食)→大峰→水無山→上和田⇒(バス)⇒大月駅 18:05(人数制限あり・ストック必須)中止連絡は 12/13(金)19:00 までに行う◇歩行時間/6時間35分◇申込/比留間裕也, 締切 12/04

<山行委/平日山行>**◆甲州高尾山 9/5 ★★/★**

天空の尾根道「甲州高尾山」◇集合/JR 勝沼ぶどう郷駅 08:15◇勝沼ぶどう郷駅⇒(タクシー)⇒大滝山不動尊→棚横手→甲州高尾山→大善寺→15:00 勝沼ぶどう郷駅◇歩行時間/4時間30分◇申込/齋藤理恵子, 締切 8/22

◆奥武蔵・武川岳 10/24 ★★/★★★

展望と岩場、起伏の激しい縦走路行く◇集合/西部秩父線芦ヶ久保駅 07:30◇芦ヶ久保駅→二子山→焼山→武川岳→妻坂峠→一の鳥居→西武秩父駅◇歩行時間/7 時間◇申込/赤坂憲子, 締切 10/14

◆羅漢寺山(弥三郎岳) 11/28 ★/★★

南アルプスを望む白砂の山と溪谷美の昇仙峡◇集合/甲府駅 08:50◇甲府駅⇒(タクシー)⇒獅子平登山口→白砂山→弥三郎岳→昇仙峡遊歩道→昇仙峡口バス停→甲府駅◇歩行時間/4時間30分◇申込/清水茂美, 締切 11 月 14 日

◆三国山 12/26 ★★/★★

富士山と山中湖を眺めながら静かな樹林帯を歩く◇集合/JR 御殿場線御殿場駅改札口 08:00◇8:10 富士急バス⇒籠坂峠→アザミ平→大洞山→檜木山→三国山→明神山(鉄砲木の頭)→切り通し峠→平野バス停 13:40 頃解散◇歩行時間 5 時間◇申込/高砂寿一, 締切/12 月 12 日

<自然保護委員会>

◆富士山・御庭の自然観察会 8/28「山の不思議発見:富士山・御庭の自然観察会」昨年 10 月末自然保護講演会「謎解き登山のスミ:地形・地質から植生を考える」の講師・小泉武栄先生による現地での自然観察会◇集合/JR 南武線谷保駅北口広場 07:30 ◇往復貸切バス利用◇谷保発 8:00⇒富士 5 合目→御庭付近観察(途中で昼食)→富士 5 合目⇒谷保(解散 18:00 過ぎ)◇申込/河野悠二, 締切 8 月 18 日, 参加費 6,000 円(バス代, 講師料など)◇氏名, 住所, 携帯番号(ない場合は自宅電話), 性別, 生年月日, 緊急連絡先(氏名, 続柄, 電話番号), 山岳保険加入先を記入して申し込む。

<連絡先>

青木義仁 jac.tokyotama@gmail.com 090-3216-3724
赤坂憲子 noriko-h26kota.h11momo@docomo.ne.jp 090-3085-6157
河野悠二 kyuuji@mwd.biglobe.ne.jp 042-544-4738
齋藤理恵子 rie.bad.guts2804@gmail.com 090-8101-7877
酒井俊太 shuntasakai00707@nifty.com 090-9317-4157
清水茂美 shi-mi-zzz-0914@ezweb.ne.jp 090-83827-3362
高砂寿一 toshikazu001@mac.com 090-8053-3040
内藤誠之郎 siro7110@yahoo.co.jp 080-3024-7882
濱野弘基 gzc04344@gmail.com 090-3577-9696
比留間拓哉 fttwn270@gmail.com 080-5386-3011

会務報告

(敬称略, 記録/山本憲一)

第108回幹事会6月18日 立川市女性総合センター

18:30~20:55 11 名

10月26日に南関東三支部懇親山行を開催

[野口支部長]6月8日から初心者向け登山実習がはじまり、最初の三頭山は天候にも恵まれた。6月15日の第7期登山実習「川苔山」は悪天候で流れてしまい、残念であった。5月25~26日、日光で栃木支部主管の全国支部懇談会が行われた。満員御礼の盛況で、各支部の方々と交流ができてなかなかよかった。6月2日に信濃支部主催のウェストン祭があり講演を行ってきた。

[事務局連絡](山本)◇都岳連関連 役員交代/亀山健太郎会長が退任し松本敏会長就任◇支部関連/10月26日に南関東三支部(埼玉・神奈川・東京多摩)懇親山行開催。山行は①登山コース/本仁田山, ②ハイキングコース/日原鍾乳洞及び日原集落散策と巨樹の森林館見学。懇親会は奥多摩 BC または木村康雄邸

[審議事項]幹事の担当について(武藤)前回の幹事会で岡田新任幹事に総務委員会の担当幹事を依頼することとしたが、岡田幹事には家庭の事情があり、総務担当幹事を担当することが困難な状況にあることが判明。当面、武藤幹事長が総務委員会担当幹事を併任する。また委員長は担当幹事が併任し、新しい委員の加入と委員実務の引継ぎを推進する。3か月後を目途に総務委で新たな委員長の任命を目指す。全会一致で承認■奥多摩 BC 管理及び利用規程の改訂について/前回提出された「奥多摩ベースキャンプ」管理及び利用規程(案), 奥多摩 BC 管理・利用要領(案)について、総務委員会で変更部分の整合性をチェックしたものと本日幹事会で決定したい。全会一致で承認。現在の多くの規程等について文言の整理・整合性をただす必要があると認識しており、総務委で全体の見直しを検討していく。

[委員会報告]財務委(植草)年会費入金状況/2019年度年会費の入金者 249 名, 未入金者 75 名(6月11日現在) 3年間以上の未入金者 2 名に対しては、規程に従い 7 月幹事会で除籍を提案する◇長期計画積立金/事務所確保資金 131,000 円, 周年記念事業資金 6,000 円 ■総務委(武藤)5月末日会員 255 名(前月末 256-1=255), 準会員 67 名(同 67), 支部友 1 名 会員合計 323 名◇新入会員オリエンテーション開催について/7 月 26 日 18:00 開場, 18:30 開始, 場所/立川市女性総合センター, 対象者/新入会員 19 名 対象者は 2 年前までの不参加者に広げてみてはどうかとの意見あり◇名簿の作成について/7~8月を目途に支部の役員名簿を作成する■ICT委(山本)HP の運営管理, メルマガ「たま便り」運営管理, システム開発運営管理, 本部 HP 内の支部ページの管理等における今後の作業分担について話し合い, 作業担当を決定した。

委員会委員の変更はなし ■広報委(武藤)前回の幹事会で、前々回の幹事会で決定した内容と異なる記事をたま通信 36 号に掲載した件の経緯と今後は事前に幹事会の同意を得たうえで掲載するよう心掛けるとの書面を受け取った。本部の入会説明会での支部案内について、たま通信のバックナンバーを活用することを武藤幹事と合意。 ■山行委(小野)10 周年記念山行の一つ雲取山集中登山を2020年10月10~11日(土・日)に 3~4 ルートを使い定例山行として実施する。長尾平記念山行は桜の時期で検討中。山行の下見は、担当者に一任されているもの

で強制ではないので山行委員会としては責任を負わない。山行申込の際に必要な個人情報を記入する申込書をたま通信, HP に掲載を要望することを検討。野口支部長から、7~9月の定例山行は宿泊山行ばかりであるが、日帰りのプランもあってもよいのではないかと提案あり。小野委員長より、今後は 1 か月 1 回の山行ではなく複数の山行プランも検討したいとの発言あり ■自然保護委(河野)「里山自然保護活動」検討チーム/5 月 13 日にモニタリング 1000 里地調査サイト裏高尾見学◇佐川の森見学は6月19日実施予定。6月7日に東京都環境局多摩環境事務所訪問◇6月16~17日に本部との共催で三峠アツモリソウ保護活動実施。参加者 13 名(支部会員 11 名)◇山の不思議発見自然観察会は小泉講師と日程調整の結果、8 月 28 日(水)実施に決定 ■安全対策委(佐藤)5月の登山計画書受理・検討業務件数は、支部山行 6 件, 同好会山行 1 件, 個人山行 11 件 計 18 件◇安全登山講演会/講師青梅警察署山岳救助隊員, 演題「最近の奥多摩山岳遭難事故の実態と事故防止への提言」◇10 月 20 日に登山技術講習会(ロープ使用方法), 講師/北島英明委員◇緊急時の現地対応シミュレーション研修は 11 月 24 日に奥多摩地域で実施◇緊急時における「遭難対策本部」の対応シミュレーション研修 12 月 19 日に室内研修◇植草由利委員退任 ■奥多摩 BC 運営委(中村)BC の鍵は「保管ボックス」を利用することにし、6 月 15 日に取り付け。利用は 7 月 1 日から ■登山教室 PT(山本) 6 月 15 日の第 7 期初級登山教室「川苔山」は大雨と風で中止。予備日の 16 日はスタッフが揃わず中止となった◇第 8 期初心者向け登山実習の受講者は 29 名。第 1 回実習「三頭山」は 24 名が参加。雨の中ではあったが、地図読みも含めて良い山行となった◇8 月 21 日午後 6 時 30 分から第 8 期初級登山教室説明会を実施する ■10 周年記念実行委員会 PT(高橋)講師候補については平林克敏氏, 重廣恒夫氏等が上がっているが、来月の幹事会で決定する◇記念海外山行報告会をインドザンスカール未踏峰登山と海外トレッキングの説明会を 8 月 3 日に関戸公民館で開催する◇功労・感謝状/評議員は対象から外す。特別に表彰する対象者は個人名を出し推薦理由をつけて提案された方を検討する。

第107回幹事会5月21日 立川市女性総合センター

18:30~20:55 13 名

人材登用プロジェクトチームを立ち上げ

[野口支部長] 通常総会が 5月12日開催された。スムーズに進行し無事終了した。5月11日, 定例山行で滝子山寂悄尾根があった。18~19日には第 7 期登山実習「上高地産研宿泊・岳沢登山」があった。お疲れさまでした。

[事務局連絡](山本)◇都岳連関連/2019年度リーダー研修会, 山のファーストエイド(救急法)講座など◇本部関連/通常総会は 6 月 22 日に四ツ谷の主婦会館プラザエフで開催◇立川市女性総合センター1 階のアイムホールは改修工事のため 8~11 月は使用不可

[審議事項]幹事の担当について(武藤)岡田新任幹事には総務委員会の担当幹事を依頼する。全会一致で承認したが、本人欠席のため、この決定を保留とする◇総務委員長に関しては、総務委員会で決定して次回の幹事会にて承認を得る。総務委員会は多忙なため、当面は武藤議長がオブザーバーとして委員会に出席して問題解決の手伝いをする◇南関東三支部合同懇親山行案

(山本) 今年度は東京多摩支部の主管開催となる。参加者増のため主婦層が参加しやすいように日帰り山行で実施する。10月26日または10月12日に恒例の奥多摩BCで実施している芋煮会と合同開催とする◇役員・委員の人員確保について(野口) 来年5月にまた役員の退任・選任があるので、人材登用プロジェクトチームを立ち上げ対応したい。6月幹事会までにPTメンバーの選任を行う。各委員会の人材確保・育成状況についてヒヤリング。プロジェクト設置について全会一致で承認。

[委員会報告]財務委(植草)2019年度年会費の入金者19名、未入金者305名(4月30日現在)3年間以上の未入金者2名に対しては、規程に従い7月幹事会で除籍を提案する◇長期計画積立金/事務所確保資金131,000円、周年記念事業資金76,000円◇2019年度予算編成・管理の手引き/講師報酬等の支払いに関する本部様式の変更に関する改定について確認■総務委(武藤)4月末会員数256名(前月257+5-6=256)、準会員数67名(同61+11-5=67)4名が通常会員に移行、支部友1名 会員合計324名◇新任委員長は次回の委員会にて決める予定◇委員退任高橋郁子■ICT委(山本)ユーザー対応として野村雅子さん、杉山美和さんの入会申請対応。両名から入会申込書受領。浦野光昭さんの支部山行へのゲスト参加申込対応。越路雄祐さんの第8期初心者向け登山講座&登山実習への参加申込対応■広報委(石塚)たま通信37号は、7月下旬発行予定■山行委(小野)「山行記録・情報の保管と管理方法」について、Dropboxの人数制限問題については具体的な時点で対応を検討◇定例・平日山行の参加者条件/団体会員が参加する場合は、1名は受け入れる。複数名の場合は、人数制限を設ける■自然保護委(河野)「里山自然保護活動」検討チーム/モニタリング1000里地調査サイト見学。寺井、河野委員の2名が参加◇佐川の森見学は6月19日に実施◇都レンジャー協働活動「雲取山石尾根登山道整備」は、5月16~17日に実施予定も、応募者1名のため中止◇山の不思議発見自然観察会は8月28日実施に決定◇9月自然観察会は、「五日市駅周辺の幸神神社、大悲願寺を巡る」で9月19日(木)実施■安全対策委(佐藤)4月の登山計画書受理・検討業務件数は支部山行6件、同好会山行1件、個人山行9件 計16件(前年6件)◇「遭難対策規程(案)」及び「遭難対策等実施マニュアル(規則案)」は、5月30日のPT会議で協議する◇「緊急連絡先情報管理システム」開発作業推進/テストデータの入力までは進めている■奥多摩BC運営委(中村)鍵の管理方法の変更に伴う「規程」と「利用要綱」改正に関して、総務委で他の規定との整合性を検討のうえ、次回の幹事会で決定する■登山教室PT(山本)6期修了生のうち10名が準会員として入会した◇第7期/5月18~19日に「上高地山研宿泊・岳沢登山」を実施。参加者は受講生28名、スタッフ12名、計39名で、山研の定員40名に近い人数で、食堂での夕食・懇親会が肩を寄せ合うような状態だった◇第8期/初心者向け登山講座の受講申込者は40名◇4月13日実施の補習山行「竜ヶ岳」参加は4期生10名、5期生13名、スタッフ14名の計37名■10周年記念実行委員会PT(高橋)10周年記念講演会講師/講師候補について、第2候補であった平林克敏氏が良いのではないかと。例えば花谷泰弘氏とか重廣恒夫氏とか◇記念海外山行/インドザンスカール未踏峰登山と海外トレッキングの説明会を同時開催する◇記念誌/印刷の相見積もりを5社とった結果、一番安い小宮山印刷工業に依頼する。※幹事会で決めた

ことを違った形でたま通信に掲載するのは問題がある。今回の幹事会に経緯を書面で提出する◇記念品/タッチボールペン、木工品(箸又はコースター)を検討中◇功労・感謝状/高橋委員長案として6年間役職を務めた人。24名が対象■その他(武藤)

HAT-Jからの依頼事項/奥多摩交流ネイチャー・カレッジ「子ども自然環境体験キャンプ」に関して子供たちの引率する人の手伝いが欲しい。それを支部報、メルマガ等で多摩支部会員に対して募集告知を流してほしいとのこと。本部総務委員会が2か月に1回実施している入会希望者への説明会に東京多摩支部の実際の活動を紹介してほしいとの要望あり。広報委員会と協力してやりたい。

第106回幹事会4月16日 立川市女性総合センター

18:30~21:00 13名

業務監査/幹事会は最高執行機関との認識を

[野口支部] 3月28日に平日山行「シタンゴ山」山行があった。4月7日に奥多摩山開きの神事があり、東京多摩支部から多くの方が参加された。4月13日に登山教室4期生と5期生の補習山行が竜ヶ岳で行われた。4月18日に本部で準会員検討プロジェクトの第1回委員会が開催される。多摩支部としては準会員が約20%を占めており、正会員は一人も入らず退会者が20数名で準会員だけが増えている状況を説明して、できれば廃止に向かって進めてほしい旨の意見を述べたい。

[事務局連絡](山本)◇都岳連関連/指導者教育教室ハイキングレスキュー講習会、気象教室、自然保護樹木観察会など。JMCSA主催の夏山リーダー講習会に青木義仁、内藤誠之郎会員が参加希望。2019年度「TMFカード募集」発行希望者6名◇支部関連/栃木支部主管開催の全国支部懇談会の参加者は150名、東京多摩支部からの参加者は3名◇本部関連/支部特別事業補助金申請は今期も昨年同様、中級登山教室事業に対して15万円の支給が見込まれる◇立川市女性総合センターアームホールは改修工事のため、8~11月は使用不可。

[審議事項]決算案の承認/土井財務委員長より貸借対照表と収支計算書に基づき説明。反対なしで承認■総会の開催について◇議案の確認/2018年度事業報告及び2019年度事業計画、1号議案及び3号議案に、5号議案(役員人事案)候補者の選任に関しては野口支部長に一任とする。決定次第各幹事に連絡し承認を得る。5号議案◇議事進行に関して/幹事は全員出席とすることを確認。会場の正面横に幹事席を設ける。司会は規程通り支部長が行う。前総会で会員の意見を聞く場を作っしてほしいとの意見があったが、評議員会で聞いていること、従来開いていなかったサテライト・サロン連絡会、同好会連絡会を通して会員の意見を聞く機会を増やしたことを支部長から話してもらう。夜の開催なので時間短縮を考慮し、90分を目途とする。当日の進行に関する件は総務委員会と常任幹事会で打ち合わせを事前に行う。■規程の変更について①安全積立金規程/同好会山行から積立金を徴収するかどうかは現在の規程でも運用で問題はないので変更は行わない。改訂するかどうかは安全対策委で救援活動の初動活動がどのように行われるのか議論を進めている段階なので、その結論がでてから改めて改訂が必要かどうか議論することとする②奥多摩BC管理及び利用規程/改正日は平成31年3月16日とする。附則の施行日も同様とする。奥多摩BC管理及び利用規程の改訂について反対なしで承認■業務監査について

(小口)改善・要望点/①幹事会は、簡潔で問題点を絞った運営がなされていてよいと思われるが、意見交換が少ない。担当委員会外のテーマでも自由に発言するのがよい②議事録の書き方として、決定内容の他に議論内容が多少とも書かれていると会員の理解が得られやすいのではない③欠席者の非常に多い委員会がある。委員会の会議にも行事にも参加しない委員はやる気のある新しい会員に代わることを考えてもよいのでは④総務委員会の負担が大きいく感じ。委員会で問題点が生じたら、該当委員会で代案を作成し、それを総務委員会にもんでもらう方向にしたらどうか◇支部役員としての心構え①幹事会は支部運営上の最高執行機関との認識をもって、ことにあたってほしい②幹事会においては、幹事は自由に意見交換をして疑問点を解消しておくのが良い。担当外のことで会員に説明できるように情報交換しておくのが良い③幹事は、幹事会(及び委員会活動)を通して支部全体の運営に努力精進することが重要である。それが、役員としての役割(義務)である。

[委員会報告] 財務委(植草)平成 30 年度年会費の入金者 324 名、未入金者:7 名(4 月 5 日現在)、2 年間に上の未入金者 4 名◇財務委員長に就任植草由利、退任土井充。野口正江委員は退任■総務委(土井)3 月末日会員数 257 名(前月 265-8=257)、準会員数 61 名(同 61+0=61)、支部友 1 名 会員合計 319 名◇支部通常総会は5月12日午後 6 時 30 分から立川市女性総合センターで◇・新入会員オリエンテーションは 7 月 26 日に立川市女性総合センターで◇富澤総務委員長辞任。後任は未定■ICT 委(山本)3 月度 WORK 一覧配布。メルマガ「たま便り」7 回配信■広報委(石塚)たま通信 36 号/4 月 26 日発送■山行委(小野)「山行記録・情報の保管と管理方法」について、Dropbox 利用時の問題点はクリア、次のステップに進む◇定例・平日山行の参加者条件/団体会員の場合の人数制限、ユースクラブの参加等について、参加条件の変更をする場合は幹事会にあげて議論をする必要がある■自然保護委(河野)「里山自然保護活動」検討チーム/モニタリング 1000 里地調査サイト見学は5月13日実施。佐川の森見学6月19日実施。都レジャー協同活動は 5 月 16~17 日に実施予定■安全対策委(佐藤)3 月の登山計画書受理・検討業務件数は支部山行 4 件、同好会山行 1 件、個人山行 13 件、計 18 件◇緊急連絡先情報管理システムのシステム開発について検討中、個人山行の登山計画書様式の簡素化について協議した■奥多摩 BC 運営委(中村)2 階の改修工事を行い、電気は点かないが宿泊は可能になった。◇8月10日は「ビールを飲んで、花火を観る会」を開催。11 日は地元のお祭りとなるので、BC を利用したイベントを考える。9~12 日まで BC オープン■登山教室 PT(山本)6 期/修了生の 9 名の準会員入会申込書が届く。本部へ提出済み◇第 7 期/第 2 ステップ受講申込者 29 名。うち支部会員 3 名◇第 8 期/初心者向け登山講座は 4 月 10 日より受講申込受付開始。16 日現在 32 名の受付完了■10 周年記念実行委員会 PT(高橋)記念式典及び祝賀会と講演会は武蔵野スینگホール(武蔵境駅)で 1 月 18 日(土)実施と決定◇記念懇親山行は①2020 年 4~5 月に長尾平集中山行②10~11 月に雲取山集中山行③多摩百山に関しては 4 月 10 日に実施方法の検討会を開く◇海外トレッキング①ヒマラヤトレッキング(エベレスト街道~ボカラ)11 日間②モンゴルハイキング 3 泊 4 日 15 万円◇記念誌/多摩やま辞典は中止。岳人記は山への思いなど「寄稿文」の形で 5 月 15 日までに提出してもらう。記念品/タッチボールペンの提案があり検討中。

功労・感謝状/入選基準が難しく保留とする。

会員等異動 (2019/4~6)

会員数(6/30) 321名(会員 254, 準会員 66, 支部友 1)

	氏名	会員番号	住所	年齢
4 月入会				
	徳永 君枝	13020	川崎市	68
(準会員)				
	森 英昭	A0150	松山市	62
	野村 雅子	A0223	小平市	51
	櫻井 美奈子	A0227	国分寺市	56
	松田 慎一郎	A0229	立川市	71
	嶋田 恵美子	A0231	小平市	56
	佐伯 享子	A0232	小平市	70
	吉田 博子	A0233	立川市	58
	川島 ひろ子	A0234	横浜市	64
	渡辺 富子	A0237	立川市	68
	佐古 明美	A0230	立川市	52
	高田 眞澄	A0235	立川市	67
6 月入会				
	加藤 尚	15077	小平市	

退会/中重賢治 15183, 亜厂文代 10869, 川口和男 9260, 渡邊正子 12382, 佐々木芳行 15555, 長谷川公子 14257, 野口正江 A0032, 篠原英明 10697, 平野倫子 A162, 北口マリコ 11936, 加藤信夫 15077。準会員⇒会員…青木義仁 A0044⇒16470, 加藤大雄 A0011⇒16471, 加藤真美 A0012⇒16472, 渡辺誠 A0065⇒16475

口絵改題

上高地/焼岳

日本山岳会スケッチクラブ 宇田俊二

上高地を訪れると河童橋から、いつも穂高連峰を望んでいる。峰は重なり合って壮大な屏風を形成している。一昨年、岳沢を登っていた。周りの風景を見渡した。梓川の流れの先に、噴煙をあげている焼岳の大きく聳えているのに出合った。まだ登っていないのに気がついた。昨年6月、スケッチクラブからの旅行先が上高地だったのを機に加わり挑戦した。田代橋から登山道にはいり、鉄製の長い梯子をつかって中尾峠経由で登頂した。ずいぶん長い行程だった。翌日、ウエストン祭に参加し帰る途中、川岸からスケッチした。





4/11 4月平日山行/飯盛山 撮影/佐藤守



4/20 4月定例山行/越前岳 撮影/酒井俊太



5/9 5月平日山行/鳴神山 撮影/石橋學



5/18 第7期登山教室 上高地 撮影/河野悠二



5/11 5月定例山行/滝子山 撮影/中原三佐代



4/7 中級登山教室 金峰山 撮影/中原三佐代



4/13 登山修了生補講 竜ヶ山 撮影/中原三佐代



6/17 自然保護委 三ツ峠山 撮影/河野悠二

東京多摩支部 CALENDAR

(2019年8～12月)掲載した計画は2019年7月15日までに得た情報に基づき編集したものです。

日程	イベント	担当	内容等
08/10	ビールを飲んで花火を観る	奥多摩BC委	9～12日に原則オープン。10日は花火とビール。山の日イベント
08/10-11	安全登山啓発	安全対策委	JR奥多摩駅前安全登山啓発のためのピラ配り
08/21	御岳山レンガショウマ観察会	自然保護委	公益事業・一般対象。御岳登山鉄道ケーブルカー頂上駅前広場1:00集合。締切8/4高砂寿一
08/24-25	北岳	山行委	8月定例。広河原6:30集合。締切8/14内藤誠之郎、参加者16名限定
08/28	富士山・御庭の自然観察会	自然保護委	「山の不思議発見」観察会。JR谷保駅北口7:30集合。締切8/18河野悠二。参加費6,000円
08/31-9/1	八海山	登山教室	中級。初級登山教室修了生の引率リーダー体験。メンバー限定
09/05	甲州高尾山	山行委	9月平日。JR勝沼ぶどう郷駅8:15集合。締切8月22日齋藤理恵子
09/14-16	唐松岳・五竜岳	山行委	9月定例。八方高速バス停13:00集合(バス新宿7:35発)締切8月31日酒井俊太。13名まで
09/21-22	白石山(和名倉山)	登山教室	中級。メンバー限定
10/05	御座山	山行委	10月定例。JR分倍河原駅東口06:00集合。締切9/30青木義仁
10/12-14	飯豊山縦走	登山教室	中級。メンバー限定
10/20	登山技術講習会	安全対策委	北島会員を講師にロープ操作方法を研修
10/24	奥武蔵・武川岳	山行委	10月平日 西武秩父線芦ヶ久保駅7:30集合。締切10/14赤坂憲子
10/26	南関東三支部懇親山行	東京多摩支部	奥多摩BCまたは木村邸で懇親会。①本仁田山②日原集落を散策
11/02	笠取山	登山教室	中級。メンバー限定。初級登山教室修了生を引率
11/09-10	浅間隠山・鼻曲山	山行委	11月定例。浅間の展望台2座。高尾駅南口ロータリー7:30集合。締切11/1濱野弘基
11/24	登山技術講習会	安全対策委	緊急時の現地対応シミュレーションを実施。奥多摩消防署と調整中
11/28	羅漢寺山(弥三郎岳)	山行委	11月平日。南アを望む白砂の山と渓谷美。甲府駅8:50集合。締切11/14清水茂美
12/14	大峰・泣き坂の頭	山行委	12月定例。JR大月駅8:00集合。締切12/4比留間裕也。人数制限あり
12/19	登山技術講習会	安全対策委	遭難対策本部の緊急時現地対応シミュレーションを実施
12/26	三国山	山行委	12月平日。静かな樹林帯を歩く。JR御殿場駅改札8:00集合。締切12/12高砂寿一

■登山教室◇7期8/22「山の医療」、9/7-8ハケ岳硫黄岳、10/5鷹ノ巣山、11/9高畑山・倉岳山、12/4「冬の山に備える」8期9/14高水三山、10/19棒ノ折山、11/23高川山、12/11「冬の山歩き・装備全般」 ＊カッパは講座



5/12 令和元年「支部通常総会」、立川市女性総合センター 撮影/廣田博

たま通信 第37号 2019年8月7日発行

発行所 公益社団法人日本山岳会東京多摩支部
〒188-0011 東京都西東京市田無町 4-11-11

Tel042-463-2871 izumi_noguchi@yahoo.co.jp

発行者/野口いづみ 編集人/石塚嘉一

© 日本山岳会東京多摩支部 2019

編集後記 『たま通信』37号が10年近く続いて、この形の支部報として最後となると思うと複雑な気持ちだ。2年前に高橋編集長から引き継いだ時は、新しい企画も入れて模様替えもできたらいいなと思ったが、始めてみると原稿を集めたり編集したりで追われて大して新味を出せないうちに辞めることになった。申し訳なく思う。厄介な記事の編集や原稿執筆、パソコンでのページ組みは高橋委員の助けを借りての共同作業だったが、紙媒体で会員をつなぐという役割は最後まで果たせたと思う。ご愛読ありがとうございました。今後は野口支部長のもとで新しいチームに新しい支部報を作ってもらふことになった。ご成功を祈ります。(YI)